

望岳山荘

いり



中嶋 嶺雄

れている。これではグローバル化に対応する人材の養成どころか大学の存立さえ危うくなるという切迫感がようやく浸透してきて、大学間の生存競争も年々激しさを増している。

推計では、

国公私立を

含めて約4

割の大学が

定員を充たしていない。

わが国には現在、780もの4年制大学がある。大学が多すぎることに加えて、少子化の影響で大学への進学予定者は年々減少しつつあり、願書を出さずだけで合格するといった、大学と大学生の質の低下が深刻に懸念さ

れている。これではグローバル化に対応する人材の養成どころか大学の存立さえ危うくなるという切迫感がようやく浸透してきて、大学間の生存競争も年々激しさを増している。推計では、国公私立を含めて約4割の大学が定員を充たしていない。

ように思われる。私のように大学経営に携わっている者にとつては、各種の大学ランキングや予備校などの大学評価も注目せざるを得ないのだが、それらのデータは意外に正確

に大学の現状と特色を反映している。その点で注目されたのが、雑誌『週刊東洋経済』10月22日号の「本当に強い大学」という最近の特集で、その「教育力」の部門で松本大学がなんと全国

第18位にランクされているのである。1位は近畿大学、2位は早稲田大学、3位は工学院大学で、トップ20位の中には東京大学も京都大学も入っていないのだから、「教育力」と

いっても教育研究費比率、学生一人当たりの図書資産、科学研究費獲得状況、初年次教育の取り組みなどが指標になっていて、このランキングがそのまま「教育力」の全国順位を示しているとはいえない

ないであろうが、それにしては2002年開学の松本大学が第17位のお茶の水大学に次いでいること自体、地元松本としては、その健闘ぶりを大いに称えてよいであろう。

松本大学が全国的に注目された最初は、日本経済新聞社産業界研究所が2年前に全国740の大学(当時)を対象に行った地域貢献度調査で堂々全国第3位になったときであった。とくに「企業・団体・行政」や「住民

項目ではほぼ最高の得点を挙げていたのである(『日経グローバル』2009・11・16)。

なお、同じ『週刊東洋経済』の「本当に強い大学」特集の学部別難易度ランキングでは、「外国語・国際系」では国際教養大がトップに」と報じられ、大阪大学とともに筑波大、東京外国語大、上智大、立教大、早稲田大、同志社大、立命館大などを引き離していた。(国際教養大学理事長・学長 松本市出身)

健闘する松本大学